

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄文化の継承・発展・普及	施 策	④文化財の保存・活用
			施策の小項目名	〇文化財の保存・活用
主な取組	民俗文化財の保存・継承		対応する成果指標	文化財の指定件数（累計）
施策の方向	・ 沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財の適切な保護と保存状態を考慮した効果的な利活用を推進するとともに、地域に残る伝統行事等の民俗文化財の調査や映像・記録作成等に係る関係機関への支援を通して、文化財の保存・活用に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
九州地区民俗芸能大会への派遣を行い、無形民俗文化財の保存継承を支援する。また、市町村等が行う民俗文化財調査や市町村・所有者・保存会等が行う映像・記録作成、修理・新調、防災等の事業に対し、経費の一部補助や国庫補助事業に関する情報提供及び事業実施において支援する。	県	九州地区民俗芸能大会への派遣、民俗文化財の調査、映像・記録作成、修理・新調、防災等の事業に対する支援		
		民俗文化財の保存・継承に向けた取組支援件数(累計)		
		1件	1件(2件)	1件(3件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL
				https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)				
予算事業名		県単補助事業（九州地区民俗芸能大会派遣）			予算事業名		県単補助事業（九州地区民俗芸能大会派遣）		
主な財源	実施方法	R4年度 決算額		R5年度 決算見込額	R6年度				
					主な財源	実施方法	当初予算額		
県単等	直接実施	581		500	県単等	直接実施	500		
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画				
令和5年11月に福岡県で開催される九州地区民俗芸能大会へ、民俗芸能団体の派遣と記録集作成を支援した。（県で経費の一部補助）					令和6年11月に熊本県で開催される九州地区民俗芸能大会へ、民俗芸能団体の派遣と記録集作成を支援する。（県で経費の一部補助）				
予算事業名		国庫補助金県裏負担分、県単補助事業（民俗文化財保存修理）			予算事業名		国庫補助金県裏負担分、県単補助事業（民俗文化財保存修理）		
主な財源	実施方法	R4年度 決算額		R5年度 決算見込額	R6年度				
					主な財源	実施方法	当初予算額		
県単等	補助	581		1,465	県単等	補助	1,000		
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画				
県指定有形民俗文化財「ウイピャームトゥの祭場」（宮古島市）の1棟（ウイウス）および「伊是名村仲田の神アサギ」（伊是名村）の修理を支援した。					県指定有形民俗文化財「伊是名村勢理客の神アサギ」（伊是名村）の修理を支援する。				

活動指標名	民俗文化財の保存・継承に向けた 取組支援件数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	3件	2件	2件	1 件（2 件）	100.0%	順調	令和5年11月に福岡県で開催された九州地区民俗芸能大会に我如古スンサーミー保存会（宜野湾市）の出演・記録集作成を支援した。県指定有形民俗文化財2件の修理を実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
目標値1件に対し、令和5年度実績値は2件の支援を行った。本県開催の九州地区民俗芸能大会には県内1団体の出演と記録作成を支援した。また、県指定有形民俗文化財2件の保存修復について、県補助金を受けての実施を支援した。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○市町村文化財保護行政担当研修会等において、九州地区民俗芸能については映像資料や等を用い、補助事業等については過去の取組事例や対象事業等を説明し、これらの事業を活用する有用性等を周知する。 ○令和5年度の九州地区民俗芸能大会に向けて派遣団体を早めに募集することで、各市町村担当者に当該大会について周知するとともに、参加を促す。	○市町村文化財保護行政担当研修会等において、九州地区民俗芸能については映像資料や等を用い、補助事業等については過去の取組事例や対象事業等を説明し、これらの事業を活用する有用性等を周知した。 ○令和5年度の九州地区民俗芸能大会に向けて派遣団体を早めに募集することで、各市町村担当者に当該大会について周知するとともに、参加を促した。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	九州地区民俗芸能大会への派遣や補助事業の取り組み事例を紹介し、地域の伝統文化の保存継承に対する同事業の有用性について、市町村担当者への周知を図る必要がある。	⑦ 取組の時期・対象の改善	市町村文化財保護行政担当研修会等において、九州地区民俗芸能については映像資料や等を用い、補助事業等については過去の取組事例や対象事業等の説明を行い、これらの事業を活用する有用性等を周知する。
⑦ その他(改善余地の検証等)	九州地区民俗芸能大会の派遣団体が所在する市町村担当者にも民俗芸能を直に見る機会をつくり、大会参加が各地域の民俗芸能の保存・継承に対する意欲向上に寄与できることを理解してもらう必要がある。	⑦ 取組の時期・対象の改善	令和6年度の九州地区民俗芸能大会に向けて派遣団体を早めに募集することで、各市町村担当者に当該大会について周知するとともに、参加を促す。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄文化の継承・発展・普及	施 策	④文化財の保存・活用
			施策の小項目名	〇文化財の保存・活用
主な取組	史跡等の保存活用計画、整備、買い上げ事業		対応する成果指標	文化財の指定件数（累計）
施策の方向	・沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財の適切な保護と保存状態を考慮した効果的な利活用を推進するとともに、地域に残る伝統行事等の民俗文化財の調査や映像・記録作成等に係る関係機関への支援を通して、文化財の保存・活用に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄の先人達が築き、残した貴重な文化遺産を国又は県の文化遺産として適切に保護し、公開・活用等を図り、県民の文化力の向上に資するために、史跡等の保存または活用目的の整備を実施する。	市町村	専門家による委員会の開催、保存活用計画や整備計画及び整備事業の実施		
		文化庁補助による整備事業件数(累計)		
		26件	26件(52件)	26件(78件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	国庫補助金県裏負担分（記念物等－保存整備事業等）			予算事業名	国庫補助金県裏負担分（記念物等－保存整備事業等）	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額	R6年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
各省計上	直接実施	414,782	363,172	各省計上	直接実施	403,498
令和5年度活動内容				令和6年度活動計画		
国指定史跡・名勝等の保存活用計画策定、整備基本計画策定、保存整備及び石垣修復工事、土地買い上げを実施した。				国指定史跡・名勝等の保存活用計画策定、整備基本計画策定、保存整備及び石垣修復工事、土地買い上げを予定。		

活動指標名	文化庁補助による整備事業件数 (累計)		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	21件	20件	20件	26件 (52件)	76.9%	概ね順調	国指定史跡等で20件の保存修理事業を実施し、石積みの修復工事、災害復旧工事、調査測量、史跡公園整備等を行った。また、各事業の整備委員会で整備方法や整備基本計画、基本設計の策定について指導助言を行った。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
○国指定史跡等において予定していた20件の保存修理、活用整備、整備計画策定等を実施した。これにより石積みの解体や修復工事、過年度の台風で罹災した箇所の復旧工事、調査測量等を行って文化財を適切に保護し、活用に向けた整備を進めた。 ○事業件数が目標値に到達せず、進捗状況は「概ね順調」となっているが、これは市町村の予算状況や実施体制に左右されるため、今回の件数でも効果は十分に得られている。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○整備委員会の議事内容について事前に市町村から情報を提供してもらい、委員会で適切な指導助言ができるように準備する。また委員会で決定した事項は市町村、県、文化庁で情報を共有し、事業の円滑化を図る。 ○市町村の担当職員との連携を密にし、事業が遅滞なく年度内に完了できるよう目を配る。 ○史跡等の整備における最新の技法や施工例等の情報を文化庁および先進県から収集し、県内の整備事業に反映させる。	○整備委員会前後に市町村の担当者と整備の方法等について概ね調整することができた。必要に応じて電話やメールで文化庁の調査官と連絡を取り、助言を得て整備に反映させた。委員会には可能な限り調査官を招聘して指導を仰ぎ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために招聘できなかった場合は各市町村と調整してWEB会議で指導助言を頂いた。 ○市町村と連携を密にした結果、問題が発生した初期の段階で情報を得ることができたため、文化庁と調整し問題を解決できた。 ○新型コロナウイルス感染症防止のため、県外への出張がほとんど中止となり、県外史跡等の視察は実現しなかった。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	整備事業は委員会において整備の方針を決定していくが、その内容が指定文化財の整備として適切なものであるよう留意する。	② 連携の強化・改善	整備委員会の議事の内容について事前に市町村から情報を提供頂き、適切な指導助言ができるように準備をする。また、委員会で決定した事項については市町村、県、文化庁で情報を共有し、事業の円滑化を図る。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	文化財担当職員数を含む文化財保護行政のスキルに対して事業内容が負担過重となっている市町村があるので、整備の方針や申請書等の文書について特に留意して指導助言を行う。	② 連携の強化・改善	市町村の担当職員との連携を密にし、事業が遅滞なく年度内に完了できるよう目を配る。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	国庫補助事業の交付額の割合が減少傾向にあるため、整備計画の事業期間について見直しが必要となっている。	③ 他地域等事例を参考とした改善	史跡等の整備における最新の技法や施工例等の情報を文化庁及び先進県から収集し、県内の整備事業に反映させる。

様式 1 （主な取組）

--	--	--	--

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄文化の継承・発展・普及	施 策	④文化財の保存・活用
			施策の小項目名	〇文化財の保存・活用
主な取組	組踊等教育普及啓発事業		対応する成果指標	文化財の指定件数（累計）
施策の方向	・ 沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財の適切な保護と保存状態を考慮した効果的な利活用を推進するとともに、地域に残る伝統行事等の民俗文化財の調査や映像・記録作成等に係る関係機関への支援を通して、文化財の保存・活用に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
組踊、琉球舞踊、琉球歌劇等の本県独自の無形文化財について、鑑賞機会の少ない県内の児童生徒を対象に公演およびワークショップを実施する。	県	組踊・沖縄伝統芸能の実演家によるワークショップの開催		
		組踊・沖縄伝統芸能ワークショップの実施回数(累計)		
		3回	3回(6回)	3回(9回)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【 098-866-2731 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html □

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名 組踊等沖縄伝統芸能普及啓発事業					予算事業名 組踊等沖縄伝統芸能普及啓発事業		
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
					主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	1,828	1,554		県単等	委託	1,561
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
沖縄本島全地域の小中学生対象に伝統芸能のワークショップを3回実施し、郷土の文化財への理解と関心を深めさせた。					沖縄本島全地域の小中学生を対象に伝統芸能のワークショップ（体験型学習）を3回実施し、郷土の文化財への理解と関心を深めさせる。		

活動指標名	組踊・沖縄伝統芸能ワークショップの実施回数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	2回	3回	3回	3回（6回）	100.0%	順調	ワークショップを計画通り3回実施した。内訳は組踊ワークショップは3校3回（小学校2、小中学校1）である。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
当初の計画通り、年間で沖縄県内の小中学校3回公演の目標値を達成したため、順調である。小中学生それぞれに対応した体験型学習（ワークショップ）の効果がみられる。	

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○解説と体験活動のバランスを再調整する。セリフの覚えなど、新型コロナウイルス感染症対策により実施できなかった体験活動を組み込むなど工夫する。 ○低学年の児童や特別支援学校の生徒でも理解しやすいように、琉球古語の字幕やワークショップのアプローチを委託業者と研究する。	○セリフの覚えなどの体験活動を組み込んだ結果、ワークショップの内容が充実したものになった。児童も積極的にワークショップに取り組んでいた。 ○琉球古語については、教員出身の出演者が口頭でわかりやすく説明するなど臨機応変に対応した。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	セリフの唱えなどの体験活動を組み込んだ結果、ワークショップの内容が充実したものになった。児童も積極的にワークショップに取り組んでいた。	⑥ 変化に対応した取組の改善	新型コロナウイルスが収束してきたため、解説と体験活動のバランスを重視したい。体験活動を通して児童生徒が意欲的に取り組めるようにする。具体的にはセリフの唱えやすさ足体験、音楽体験等を行う。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄文化の継承・発展・普及	施 策	④文化財の保存・活用
			施策の小項目名	○無形文化財の記録保存
主な取組	無形文化財記録作成事業		対応する成果指標	文化財の指定件数（累計）
施策の方向	・ 無形文化財については、保存会等が行う取組への支援や映像資料・報告書等の記録保存に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施 主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
無形文化財の保存を目的として、保存会等が行う無形民俗文化財(民俗芸能)や無形文化財(芸能、工芸)の記録作成事業について補助や助言により支援し、映像資料や報告書等の成果物を伝承者の養成等に活用する。	保存会	無形文化財保持者対象の聞き取り調査及び記録保存		
		保持者調査に関する冊子の作成件数(累計)		
		1件	1件(2件)	1件(3件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	琉球舞踊伝承者養成				予算事業名	琉球舞踊伝承者養成	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
		主な財源	実施方法		当初予算額		
県単等	補助	207	209		県単等	補助	213
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
令和4年度に継続して琉球舞踊の保持者記録（聞き取り調査、演舞記録）作成および組踊道具・衣裳の人間国宝、故島袋光史氏の作業記録をデータ化する。					令和5年度に継続して琉球舞踊の保持者記録（聞き取り調査、演舞記録）作成データ化する。		
予算事業名	県単補助事業（九州地区民俗芸能大会派遣）				予算事業名	県単補助事業（九州地区民俗芸能大会派遣）	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
		主な財源	実施方法		当初予算額		
県単等	直接実施	300	500		県単等	直接実施	500
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
令和5年11月に福岡県で開催される九州地区民俗芸能大会へ、民俗芸能団体の派遣と記録集作成を支援する。（県で経費の一部補助）					令和6年11月に熊本県で開催される九州地区民俗芸能大会へ、民俗芸能団体派遣と記録集作成を支援する。（県で経費の一部補助）		

活動指標名	保持者調査に関する冊子の作成件数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	3件	2件	1件	1 件（2 件）	100.0%	順調	琉球舞踊の保持者記録（聞き取り調査、演舞記録、道具衣装作業）、九州地区民俗芸能大会の記録集を作成。また、無形文化財・無形民俗文化財を保存継承するための基礎・基本を示す教則的なものとして活用した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
琉球舞踊の保持者記録（聞き取り調査、演舞記録、道具衣装作業）をまとめた記録を作成を行った。無形文化財並びに無形民俗文化財を保存継承していくための基礎基本を示す教則の充実が図られるとともに、作成した記録を研修に利用するなど、普及にも活用された。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○これまでに作成した映像や記録集を無形文化財の普及啓発において効果的に活用できるよう支援をする。 ○市町村文化財保護行政担当研修会等において、九州地区民俗芸能については映像資料や等記録集を用いて説明を行い、当該大会派遣団体を中心に、映像資料等の貸し出しを行う。	○これまでに作成した映像や記録集を無形文化財の普及啓発において、リスト化し伝承者養成研修等で視聴を促し、効果的に活用できるよう支援した。 ○市町村文化財保護行政担当研修会等において、九州地区民俗芸能については映像資料や等記録集を用いて説明を行い、当該大会派遣団体を中心に、映像資料等の貸し出しを行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	・これまで作成した琉球舞踊の映像記録集は、保持者の経歴・実演等残す資料として作成しているが記録資料は時間が経つにつれ価値が増すものである為、現時点では作成した映像記録の活用は十分されていない。	⑤ 情報発信等の強化・改善	・これまでに作成した映像や記録集を無形文化財の普及啓発において効果的に活用できるよう支援をする。
⑤ 県民ニーズの変化 (外部環境の変化)	・映像、記録集等は、保持者の経歴・実演等残す資料として作成されているが、伝承者研修は実際に保持者の指導のもと研修を実施しているため、資料活用の機会が少ない。		
⑦ その他 (改善余地の検証等)	・保存会等において、映像や記録の作成にとどまり、成果物の効果的な活用方法について検証されないケースもあると考えられることから、継続してその活用に助言を行う必要がある。		
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	・九州地区民族芸能大会で上映した民族芸能の記録（映像を含む）を作成しているが、活用についての周知が十分ではない。		

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄文化の継承・発展・普及	施 策	④文化財の保存・活用
			施策の小項目名	○貴重な文化遺産の後世への継承
主な取組	埋蔵文化財の発掘調査		対応する成果指標	文化財の指定件数（累計）
施策の方向	・文化財の新たな指定に向けた調査、米軍基地内を含む埋蔵文化財の各種調査と保存・活用、在外文化財の調査、戦災文化財の復元等を進め、貴重な文化遺産の後世への継承に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
埋蔵文化財包蔵地の所在把握と周知徹底に努めるとともに、埋蔵文化財保護の趣旨を県民や開発事業者に対して丁寧に説明することで理解と協力を求め、その保護に努める。また開発事業者と協議調整の結果、現地保存が困難となった場合には、記録保存を講じるための発掘調査を実施する。	県,市町村	埋蔵文化財の表面踏査や試掘・確認調査及び記録保存調査の実施		
		文化庁補助による埋蔵文化財緊急調査事業件数(累計)		
		25件	25件(50件)	25件(75件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名		国庫補助金（埋蔵文化財－発掘調査）			予算事業名		国庫補助金（埋蔵文化財－発掘調査）
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
					主な財源	実施方法	当初予算額
各省計上	直接実施	462, 781	540, 798		各省計上	直接実施	403, 532
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
埋蔵文化財の予備調査や記録保存調査を実施し、遺跡地図や報告書の刊行を通じて周知を図り、各種開発の調整や遺跡保存のための資料とした。					表面踏査や試掘・確認調査を通じて埋蔵文化財の所在を把握する。また、広く周知して各種開発への対応及び協議・調整するための資料作成を行う。		
活動指標名	文化庁補助による埋蔵文化財緊急調査事業件数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	27件	24件	25件	25件（50件）	100.0%	順調	令和5年度は25件の事業で埋蔵文化財の表面踏査や試掘・確認調査及び記録保存調査を実施した。また、報告書等の刊行で各種開発事業者や県民へ周知を図るとともに、協議・調整等の資料に資することができた。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
○開発対応に伴う埋蔵文化財発掘調査を遅滞なく行っており、取組の進捗は順調である。また、開発事業者との事前協議において発掘調査の範囲を縮小できた事案もあり、文化財の適切な保護に寄与した。 ○さらに、遺跡地図や発掘調査報告書の刊行及びホームページ上での公開、展示会・講演会等で埋蔵文化財の周知を図ることで、開発事業に対する事前協議・調整を円滑に実施することができた。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○市町村との連携を強化するために、市町村が実施する現場の現地指導を積極的に行い、綿密な情報共有を図る。 ○特に嘉手納飛行場以南の米軍基地返還に伴う跡地利用計画等の円滑化および、埋蔵文化財の調査体制強化については、綿密な情報収集を図りつつ、市町村に対して体制強化に関する助言を継続して行う。 ○県が文化庁等が開催する研修会等への参加を促すために、文化財担当者が参加しやすい環境の提供や研修内容について検討する。	○市町村に寄せられた開発協議について、適宜、助言・協力を行い、円滑な調整に寄与することができた。 ○令和5年度から5市町村で新規専門職員を採用することとなり、埋蔵文化財保護体制の強化を図ることができた。 ○新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン配信による実施となった文化庁主催の研修会等について、受講環境が整備されていない市町村担当者向けに、受講会場を提供した。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	市町村の埋蔵文化財専門職員数は、現場件数に対して少数であることに加え、文化財全般の業務も兼ねるため、緊急の埋蔵文化財発掘調査が大規模もしくは同時多発的に生じた場合には対応が難しい。	② 連携の強化・改善	市町村との連携を強化するために、市町村が実施する現場の現地指導を積極的に行い、綿密な情報共有を図る。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	近年、一部の市町村で埋蔵文化財専門職員の定年退職及び管理職昇進に伴う新規採用が行われているが、大規模調査に際して新規採用職員の経験不足等が懸念される。	② 連携の強化・改善	特に嘉手納飛行場以南の米軍基地返還に伴う跡地利用計画等の円滑化及び、埋蔵文化財の調査体制強化については、綿密な情報収集を図りつつ、市町村に対して体制強化に関する助言を継続して行う。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	平成25年の嘉手納飛行場以南の米軍基地14施設と区域の土地返還合意を受け、移転先の施設建設に伴う発掘調査のほか、跡地関係市町村における跡地利用計画の策定が急務となる。	⑤ 情報発信等の強化・改善	県が文化庁等が開催する研修会等への参加を促すために、文化財担当者が参加しやすい環境の提供や研修内容について検討する。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	今後、体制が未整備の市町村から県に対して、埋蔵文化財保存措置に関する協力依頼が増加するとともに、各種開発への対応増も予想される。		

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄文化の継承・発展・普及	施 策	④文化財の保存・活用
			施策の小項目名	○貴重な文化遺産の後世への継承
主な取組	基地内埋蔵文化財分布調査事業		対応する成果指標	文化財の指定件数（累計）
施策の方向	・文化財の新たな指定に向けた調査、米軍基地内を含む埋蔵文化財の各種調査と保存・活用、在外文化財の調査、戦災文化財の復元等を進め、貴重な文化遺産の後世への継承に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
駐留軍用地の跡地利用に伴い、米軍等施設内及びその跡地内において踏査や試掘・確認調査を行うことで、埋蔵文化財の有無や範囲、性格等を把握する。また、その成果を遺跡地図や発掘調査報告書として公開し、埋蔵文化財の周知・理解に取り組む。	県,市町村	米軍施設内所在の埋蔵文化財に関する分布状況や試掘・確認調査の実施		
		文化庁補助による分布調査、試掘・確認調査事業件数(内訳)		
		5件	5件(継続5件)	5件(継続5件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課	【 098-866-2731 】		関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		県内遺跡発掘調査等（基地内文化財分布調査）			予算事業名		県内遺跡発掘調査等（基地内文化財分布調査）	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
各省計上	直接実施	41,015	66,380		各省計上	直接実施	31,848	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
普天間飛行場内に所在する伊佐上原南遺跡の確認調査を実施し、遺跡の範囲や性格を把握した。また、過去の調査で得られた資料の整理作業を行った。					昨年度に引き続き、普天間飛行場内に所在する伊佐上原南遺跡等の確認調査を実施する。また、過去に実施した調査で得られた資料の整理作業を行う。			

活動指標名	文化庁補助による分布調査、試掘・確認調査事案件数（内訳）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	5件	5件	5件	5 件（継続 5 件）	100.0%	順調	普天間飛行場に所在する伊佐上原南遺跡の確認調査を実施した。また、今後の報告書刊行に備えて、過年度に実施した普天間飛行場内の確認調査で得られた資料の整理作業を行った。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
在沖米軍をはじめ、関係機関との綿密な事前調整を行い、令和5年度も現地での確認調査を継続して実施することができた。また、平成25・26年度に実施した普天間飛行場内の確認調査成果をまとめた報告書の刊行により、普天間飛行場内に所在する文化財について、各種開発事業や県民へ周知を図るとともに、協議・調整及び遺跡保存の資料に資することができた。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○基地内調査とその他開発に伴う調査の双方に対応し得る埋蔵文化財専門職員数を確保するために、返還跡地利用計画に関する情報収集を行いつつ、関係機関への丁寧な説明を継続して行う。 ○基地内調査について、引き続き可能な限り早期に国や米軍との情報収集や調整、各種申請を開始するよう努める。	○令和6年度に埋蔵文化財専門職員5名を新規で採用することができた。今後も発掘調査体制の強化を図るため、引き続き埋蔵文化財専門職員を増員する予定である。 ○また、文化庁や沖縄防衛局に対し、今後の米軍施設関連調査に対応し得る体制整備について継続して調整を進めている。 ○沖縄防衛局や在沖米軍と綿密な調整を行い、令和6年度の普天間飛行場内立入申請書を作成し、承諾を得た。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	返還跡地利用計画の円滑化には埋蔵文化財の試掘が不可欠となる。しかしながら米軍施設内は制約が多く、十分な調査が進んでいない。	② 連携の強化・改善	基地内調査とその他開発に伴う調査の双方に対応し得る埋蔵文化財専門職員数を確保するために、返還跡地利用計画に関する情報収集を行いつつ、関係機関への丁寧な説明を継続して行う。
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	跡地利用計画の策定に先立ち埋蔵文化財の調査が必要だが、県・基地所在市町村ともに諸開発に伴う調査も多いため、基地内調査に対応可能な埋蔵文化財専門職員数が不足している。	② 連携の強化・改善	基地内調査について、引き続き可能な限り早期に国や米軍との情報収集や調整、各種申請を開始するよう努める。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	毎年のように米軍施設内での調整条件が変更となるため、その調整に時間を要することで、調査期間の短縮等の影響が懸念される。		

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄文化の継承・発展・普及	施 策	⑤歴史資料の保存・編集・活用
			施策の小項目名	○「新沖縄県史」や「歴代宝案」の編集刊行
主な取組	史料編集事業		対応する成果指標	琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブのアクセス数
施策の方向	・沖縄に関する歴史認識・文化意識をより一層深めるため、歴史に関する調査研究、資料収集を行い、ウェブ等を利用して県民等が効果的に資料の活用ができるよう取組を推進するほか、本県の自然・歴史・文化を網羅した体系的な歴史書「新沖縄県史」及び琉球王国の外交文書集「歴代宝案」の編集刊行に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
県内外からの歴史資料のニーズに対応しつつ、本県の歴史や文化を明らかにし、特色ある学術文化の振興を図ることを目的に、新沖縄県史を編集刊行する。 主な取組内容として ①新沖縄県史の編集刊行 ②歴代宝案編集に資するため中国第一歴史档案馆との交流事業	県	新沖縄県史の編集刊行		
		史料編集刊行物数(累計)		
		3冊	2冊(5冊)	3冊(8冊)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課	【 098-866-2731 】	関連URL	https://ryuoki-archive.jp/

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名		史料編集事業費□			予算事業名		史料編集事業費□
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
					主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	19,226	13,294		県単等	直接実施	14,874
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
「新沖縄県史各論編」言語・芸能「沖縄県史ビジュアル版14 沖縄戦」は、部会等で内容を検討し、編集を進める。□					昨年度に引き続き、「新沖縄県史各論編」言語・芸能は、部会等で内容を検討し編集を進める。「沖縄県史ビジュアル版14 沖縄戦」発刊予定。□		
活動指標名	史料編集刊行物数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	2冊	3冊	2冊	2冊（5冊）	100.0%	順調	「新沖縄県史各論編言語」「沖縄県史ビジュアル版14 沖縄戦」は原稿の校正・編集等を行い「新沖縄県史各論編芸能」は専門部会にて内容構成の検討を行う。中国第一歴史档案馆とは、研究者招聘事業を実施
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
今年度2冊刊行し、累計で230冊となった。専門部会では内容検討を行い、編集を進めた。中国第一歴史档案馆との学術交流は研究者招聘事業を行った。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和5年度の取組改善案				反映状況			
○学校教育の中でも活用しやすい県史の普及本の編集刊行に取り組む。 ○教職員研修会等で、県史の活用促進を提案するほか、県史を活用した授業提案に取り組む。				○普及本「沖縄県史ビジュアル版14 沖縄戦」の発刊に向け、校正・編集等を行った。 ○公立学校初任者研修・中学校社会科夏期講習で講義を行い、学校教育での県史資料の活用促進に繋がるよう提案した。			

様式1（主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	新沖縄県史の刊行について、コロナ禍で、編集会議が持てない等の要因から計画に遅れが出ており、令和5年度の実施分では、元の計画ペースに戻せなかった。	① 執行体制の改善	事務局内部の業務の割振りを時期に応じて、柔軟に組み替え出来るよう、柔軟な組織体制を作る。
① 県の制度、執行体制（内部要因）	中国第一歴史档案馆と交流事業を行う際の事務局の執行体制として、通訳（翻訳）を行える職員の確保が必要	① 執行体制の改善	事業を円滑に実施するために、語学に通じた職員の安定した配置を人事に要望を行う。また沖縄県その他機関に所属する通訳（翻訳）を行える職員に協力依頼を行う。
⑦ その他（改善余地の検証等）	公立学校初任者研修等で沖縄県史資料の活用提案を行っているが、学校現場での実践につながっているのか見えない。	② 連携の強化・改善	教育委員会関係機関（沖縄県立総合教育センター、教育庁関係課）と連携を図り、学校現場での沖縄県史資料の活用実践を推進する。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄文化の継承・発展・普及	施 策	⑤歴史資料の保存・編集・活用
			施策の小項目名	○「新沖縄県史」や「歴代宝案」の編集刊行
主な取組	琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業		対応する成果指標	琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブのアクセス数
施策の方向	・沖縄に関する歴史認識・文化意識をより一層深めるため、歴史に関する調査研究、資料収集を行い、ウェブ等を利用して県民等が効果的に資料の活用ができるよう取組を推進するほか、本県の自然・歴史・文化を網羅した体系的な歴史書「新沖縄県史」及び琉球王国の外交文書集「歴代宝案」の編集刊行に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
「歴代宝案概説」は原稿依頼を行い編集を進めた。琉球王国交流史料のデジタル化・テキスト化委託を行い、デジタルアーカイブにおける公開資料の拡充を図った。	県	琉球王国外交文書集「歴代宝案」等の編集刊行 琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブの公開		
		事業関連刊行物数(累計)		
		1冊	0冊(1冊)	1冊(2冊)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課	【 098-866-2731 】	関連URL	https://ryuoki-archive.jp/

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業			予算事業名		琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	直接実施	31,761	29,186		一括交付金 (ソフト)	直接実施	30,338	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
「歴代宝案概説」の刊行に向け、原稿の校正、執筆依頼、編集を進める。デジタルアーカイブの公開資料の拡充に取り組んだ。					「歴代宝案概説」の刊行に向け、原稿の校正、執筆依頼、編集を進める。引き続きデジタルアーカイブの公開資料の拡充に取り組む。			

活動指標名	事業関連刊行物数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	6冊	1冊	1冊	0冊（1冊）	100.0%	順調	「歴代宝案訳注本全15冊刊行記念シンポジウム報告集」を刊行した。 「歴代宝案概説」の刊行に向け、令和5年度の原稿執筆依頼、校正、編集を進めた。デジタルアーカイブの公開資料の拡充を図った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
本年度は1冊、累計で63冊の事業関連刊行物を計画通り刊行した。また、琉球王国交流資料のデジタル化については、校訂本のテキスト化に加え「デジタル画像集」を設置するなど、デジタルアーカイブのコンテンツを拡充することで、何度でも訪れたくなるアーカイブの魅力の維持向上を図ることができた。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和5年度の取組改善案				反映状況			
○交流史資料のデジタル化の作業内容を十分に検討し、見直しが必要な工程は改善し、さらなる効率化を目指す。 ○Webサイトや講座・展示会場などでのアンケート結果等をもとに、企画内容のさらなる改善を図る。 ○県立学校教育課や総合教育センターなどの関係機関と連携して、教員研修やワークショップ等の機会を利用し、教員とともに授業開発を行う機会を設ける。				琉球王国交流史料デジタルアーカイブのウェブサイトへの1年間のアクセス数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）が18,000件、ウェブ（デジタル）教材ダウンロード数は、425件で目標を達成した。 沖縄県立総合教育センターでの研修で、歴代宝案等を使用した授業実践事例講座で348人の参加があった。			

様式1（主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	琉球王国交流史への県民や教育関係者の理解を進めるためには、より分かり易い説明や解説を用いた講座・展示の企画立案が課題である。	① 執行体制の改善	様々な歴史資料等を活用し、琉球王国交流史に対しより興味を持たせるなどの工夫が必要である。
① 県の制度、執行体制（内部要因）	ウェブサイト利用者数を維持し、かつ利用者層の幅を広げるため、公開するデジタル資料をさらに充実させる必要がある。	① 執行体制の改善	定期的な資料公開を目指し、公開する交流史資料の検討、デジタル化を計画的に進める必要がある。
⑦ その他（改善余地の検証等）	デジタル教材の開発に関して、校種・教科ごとに対応する学習指導要領に沿った活用方法や学習目標を設定し、効果的な活用を考慮したうえで、作成する必要がある。	② 連携の強化・改善	沖縄県立総合教育センターなどの関係機関と連携し、デジタル教材の教員研修等での実践事例紹介、学校現場の教員への支援を進めながら、より使いやすい教材についての考察を進める。